

2015年4月19日 主日礼拝

説教「神さまがいつしょ」

士師記6章7-16節

【成長させる神さま】

イスラエルがカナンに侵入してから、王さまができるまでの200年間は士師記の時代。この時代、イスラエルの12部族はゆるやかな連合だったので、しばしば異民族の侵入を受けました。そうした侵入が起こるのは、決まってイスラエルが偶像礼拝を行ったときでした。神さまに助けを求めると、士師が起こされる、これが繰り返された時代でした。

ミデヤン人を恐れて、酒ぶねの中で小麦を打っていたギデオン。そこへ主の使いがあらわれます。神さまがイスラエルをあわれんでくださったのです。神さまはいつも、ご自分から近づいてくださいます。ここ数週間、礼拝の中で聴いてきたとおりです。

主の使いはギデオンを「勇士」と呼びます。ところがギデオンはまったく勇士ではないのです。けれども神さまは、ギデオンをほんとうの勇士へと成長させてくださいます。その成長は、祈りの中で起きたのです。

【つぶやくギデオン】

ギデオンの祈りは、いわゆるすばらしい祈りではありません。むしろ神さまに対するつぶやきのような祈り。「ああ、主よ。もし【主】が私たちといつしょにおられるなら、なぜこ

れらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか」(13)とつぶやき、「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができます。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。」(15)と不平を言うのです。

つぶやきがあるなら、それを神さまに向かって直接申しあげたらよい。ギデオンの祈りは、私たちに祈りの本質を教えています。神さまは、私たちの心の底に触れたいと願われます。私たちが自分でも、手が付けられないでいる心の底の部分。そこに届いて、そこを解き放ってくださるのです。神さまに不平を言わないで、ひとりでがんばるのは、自分の人生から神さまを閉め出してしまうことになるのです。

【しるしを求めるギデオン】

けれども、ギデオンは、不平だけで終わりませんでした。大胆にもしるしを求めたのです。自分と話しているのが、神さまだというしるし、証拠を見せて欲しいと言ったのです。

私たちはしるしを求めることを悪いことだと思っています。けれども神さまは、私たちが神さまに近づかないで、なんとなく神さまを敬遠しているなら、それを喜ばれないのです。神さま、あなたですか。そう言って、近づくことを望んでおられます。そして神さまは、ギデオンにしるしを見せてくださいます。

した。「たちまち火が岩から燃え上がって、肉と種を入れないパンを焼き尽くしてしまった」(21)のでした。今も、神さまはしるしを見せてくださっています。私たちが望むようにではないかもしれませんが、神さまの望まれるやり方です。しるしを見せてくださっているのです。

【勇士になったギデオン】

祈りの中で神さまと激しく向き合いながら成長するギデオン。神さまはギデオンに、もう一度大きなチャレンジをなさいました。「あなたの父が持っているバアルの祭壇を取りこわし、そのそばのアシェラ像を切り倒せ」(25)とお命じになったのです。ギデオンは、神さまにしたがって立ち上がります。まだ昼間に出て行く勇気はなかったので、夜に行きました。それでも、ギデオンは確実に成長しています。人は祈りの中で、成長するのです。信仰の勇士に作られるのです。

【すばらしい神さま】

ある牧師がこう言いました。「あなた自身や、あなたの教会に問題がありますか？もし、問題があるなら、そのときこそ神さまが働かれるときです」と。ほんとうに神さまは、問題のまっただ中に働いてくださいます。私たちの想像をはるかに超えた、すばらしいやり方で働いてくださり、問題の解決とともに、私たちをも成長させてくださるのです。